川村学園女子大学研究紀要　第17巻　第1号　101頁―117頁　2006年

親子関係と青少年の非行的態度
――沖縄県の中高生に対する実態調査から――

中村　真*・松井　洋**
堀内勝夫***・石井隆之****

Parent-child Relationships and Attitudes toward Delinquency in the Youth of Okinawa

NAKAMURA Shin, MATSUI Hiroshi, HORIUCHI Katsuo, ISHII Takayuki

要　旨

中里・松井（1997，1999，2003）は，青少年の価値観，思いやり意識，親子関係などに関する縦断的な国際比較研究を行い，諸外国に比較して日本の若者の意識が多くの側面において悪化していることを示した。特に，非行的態度の悪化は深刻な様相を呈している。一方，非行的態度の抑止には親子関係の親密さが大きく貢献することが明らかになっており，親子間の心理的距離が近いほど，子どもは非行に対して抑止的な態度を形成する傾向にある。

ただし，これらの研究知見は我が国を全国的に平均化してとらえた結果，得られたものである。本稿では，親子関係と非行的態度の関連性が地方や遠隔地にも共通しているかどうか，すなわち，両者の関係が一般的に適用可能なものであるのかを，沖縄県と他都道県の中高生を比較検討することによって明らかにしようと試みた。

総じて，親子関係の親密さが非行的態度を抑制することが示されたが，沖縄においては両親との心理的距離の遠さを補って非行的態度を抑止するような他の要因の存在が示唆された。

キーワード：親子関係，心理的距離，非行的態度

*助教授　社会心理学
**教授　社会心理学
***産業能率大学
****日本・精神技術研究所

中村　真・松井　洋・堀内勝夫・石井隆之

【問題・目的】

我々（中里・松井，1997；中里・松井，1999；中村他，2002；中里・松井，2003；中里他，2003）は，青少年の価値観，思いやり意識，親子関係などに関する縦断的な国際比較研究を行い，諸外国に比較して日本の若者の意識が多くの側面において悪化していることを示した。特に，我が国の中高生は非行に対して許容的であり，その傾向は年を経るごとに著しくなっている。主たる悪化の内容は，年少少年による非行の凶悪化や女子による発生件数の増加など，いわゆる，低年齢化と質的・量的な悪化である。

非行悪化の背景には，青少年を取り巻く社会環境の変化など，さまざまな要素があると思われるが，親子関係の希薄化もその一つであり，かつ多大な影響を及ぼしているものと考えられる。実際，我々が行った一連の調査において，日本の中高生は諸外国の中高生に比べて，“親のようになりたい”，とか“親とはうまくいっている”などの質問に対する肯定率が著しく低かった。これは，子どもから見た親との心理的距離が遠いことを示している。つまり，子どもからみた親子関係が極めて希薄なのである。しかも，親との心理的距離が遠い子どもほど，非行に対して許容的であることが統計的に確かめられている。これらの知見は，親子関係が親密であるほど，子どもは非行に対して抑止的な態度を形成することを示唆する。

ただし，これらの研究知見は我が国を全国的に広く概観した結果，得られたものである。先に述べたような親子関係と非行的態度の関連性が地方や遠隔地に共通して言えるかどうか，などについては厳密に検証されていない。

本稿は，沖縄県の中高生に焦点を合わせ，彼らと他都道県の中高生を比較することによって，親子関係が非行的態度に及ぼす影響の一般性について検討する小報告である。

【方法】

調査方法

質問紙による調査を行った。調査依頼に応じていただいた各学校へ調査票を送付し，クラス単位で調査票の配布，記入，回収をしていただいた。

調査票の構成

調査票は，恥意識に関する質問（4件法，18項目），愛他性に関する質問（4件法，5項目），非行許容性に関する質問（4件法，10項目），価値観に関する質問（4件法，12項目），父親お

よび母親に対する心理的距離に関する質問（4件法，各8項目），罪悪感に関する質問（4件法，18項目）およびフェースシートから構成された。本稿では父母に対する心理的距離および非行許容性に関する質問について分析する。

中高生から見た親に対する心理的距離を親子関係の良否を掌握するための指標として用いた。心理的距離尺度は，「父（母）はなにかと私に相談する」，「父（母）は頼りがいがある」，「父（母）のようになりたい」，「父（母）とはうまくいっている」，「私は父（母）に愛されていると思う」，「父（母）は私に期待している」，「私は父（母）が好きだ」，「父（母）を尊敬している」の8項目であった。それぞれの質問項目に対して『そうである』～『まったくそうではない』の4件法で尋ねた。

非行許容生に関する質問項目は，「タバコを吸う」，「酒を飲む」，「エッチな雑誌やアダルトビデオを見る」，「夜遅くまで外で遊ぶ」，「ちょっとしたものを万引きする」，「ケンカをして怪我をさせる」，「人の物を盗む」，「覚醒剤などの薬物を使う」，「学校をサボる」，「異性の友人と二人で泊まる」の10項目であった。同世代の人がこれらの行為をしたらどう思うかを『たいしたことはない』～『非常に悪いことだ』の4件法で尋ねた。

調査対象者

調査は，北海道，青森県，東京都，沖縄県における中学校6校，高等学校4校の計10校で実施した。具体的な内訳は表1の通りである。対象者の学年は，中学校1～3年生と高校2年生であった。

調査期間

調査は，2003年11月～12月に実施した。

表1　調査対象者の内訳

		北海道	青森	東京	沖縄	計
男子	中学	129	68	0	92	289
	高校	0	0	131	128	259
	小計	129	68	131	220	548
女子	中学	126	63	0	102	291
	高校	0	0	140	181	321
	小計	126	63	140	283	612
	総計	255	131	271	503	1160

【結果と考察】

1. 両親に対する心理的距離

心理的距離尺度8項目の信頼性係数は，父に対する心理的距離が$\alpha = .88$，母に対する心理的距離が$\alpha = .87$であった。したがって，それぞれ一次元性があるとみなし，以降の分析では，調査対象者ごとに8項目の平均点（父母別）を算出し，これらを父母に対する心理的距離得点として用いた。得点が低いほど心理的距離が近いことを示す。

表2は，沖縄県，他都道県，全体ごとにみた心理的距離得点の平均と標準偏差である。これをみると，父親との心理的距離は沖縄県の中学男子のみ他よりも近くなっているが，地域差はほとんどみられない。母親との心理的距離も沖縄県の中学男子のみ他よりも近くなっているが，大きな地域差はみられない。また，父親に比べて母親との心理的距離のほうが近くなっている。この傾向も沖縄県と他都道県に共通している。

次に，調査対象者全員について，父および母に対する心理的距離得点を算出し，それぞれの平均点を境に近群と遠群に分割した。表3は，父母に対する心理的距離の遠－近群の度数を地域別にまとめた分割表である。有効回答数は，1018であった。全体としてみると，父母両方に対して心理的距離が近い者が最も多く，両方に対して心理的距離が遠い者が次に多い。すなわち，一方の親に対して心理的距離が近い（遠い）者は，もう一方の親に対しても近い（遠い）傾向があるといえよう。この傾向も沖縄県と他都道県に共通している。

表2　両親に対する心理的距離の平均（標準偏差）

	父親との心理的距離			母親との心理的距離		
	沖縄	他都道県	全体	沖縄	他都道県	全体
中学男子	2.24（.68）	2.45（.75）	2.39（.73）	2.17（.66）	2.42（.73）	2.34（.72）
中学女子	2.43（.66）	2.45（.75）	2.44（.72）	2.00（.67）	2.06（.67）	2.04（.67）
高校男子	2.36（.64）	2.38（.68）	2.37（.66）	2.11（.53）	2.19（.66）	2.15（.60）
高校女子	2.40（.71）	2.35（.64）	2.38（.68）	1.93（.63）	1.91（.69）	1.92（.66）
全体	2.37（.68）	2.42（.71）	2.40（.70）	2.03（.63）	2.16（.72）	2.11（.68）

※　値が小さいほど心理的距離が近いことを示す

表3　両親との心理的距離の遠－近群（人数）

			母親との心理的距離 近群	遠群	計
父親との心理的距離	近群	沖縄	185	62	
		他都道県	213	112	
		全体	398	174	572
	遠群	沖縄	67	114	
		他都道県	72	193	
		全体	139	307	446
		計	537	481	1018

これらの結果は，父親および母親に対する心理的距離，すなわち，中高生の視点における親子関係の様相に地域差はほとんどなく，全国的に同様な傾向であることを示している。日本の国土は東西南北に幅広いが，少なくとも本稿の調査対象地域においては，子どもから見た親子関係の親密さに大きな違いは見られないと結論づけられる。

2. 非行的態度

ここでは，中高生の非行的態度を掌握するために非行に対する許容性を測定した。具体的には，以下の3つの指標を用いた。まず，全10項目の平均点を非行全体に対する許容性とし，『タバコを吸う』，『酒を飲む』，『エッチな雑誌やアダルトビデオを見る』，『夜遅くまで遊ぶ』，『学校をサボる』，『異性の友達と二人で泊まる』の6項目の平均点を虞犯に対する許容性とした。さらに，『ちょっとしたものを万引きする』，『ケンカして怪我をさせる』，『人の物を盗む』，『覚醒剤などの薬物を使う』の4項目の平均点を刑法犯に対する許容性とみなした。いずれも得点が高いほど許容的であることを示す。

表4は，中高生の非行全体，虞犯，刑法犯に対する許容性を沖縄県と他都道県ごとに示したものである。全体的な傾向として，刑法犯に対しては非許容的であるが，虞犯に対して許容的であることがうかがえる。特に，『エッチな雑誌やアダルトビデオを見る』，『夜遅くまで遊ぶ』，『異性の友達と二人で泊まる』などの虞犯に対して許容性がかなり高くなっており，地域差もほとんどない。この結果は，一連の調査研究と一致するものであり，虞犯とはいえ，我が国の中高生の非行的態度が好ましくない状態を維持していることを示唆する。一方，非行全体と刑

法犯においては，沖縄の中高生の許容性がやや低い。他都道県に比べて沖縄の中高生は刑法犯を許容しない程度がやや高いと言えるが，その差はあまり大きくない。

表4　非行許容性の平均（標準偏差）

		沖縄県		他都道県	t値
虞犯	タバコを吸う	2.44 (1.12)	<	2.58 (1.19)	2.00*
	酒を飲む	3.01 (1.02)		3.04 (1.10)	.42
	エッチな雑誌やアダルトビデオを見る	3.51 (.86)		3.56 (.84)	.87
	夜遅くまで遊ぶ	3.31 (.85)		3.33 (.89)	.46
	学校をサボる	2.92 (.90)	<	3.02 (.97)	1.78+
	異性の友達と二人で泊まる	3.40 (.92)		3.48 (.88)	1.57
	虞犯全体	3.10 (.72)		3.17 (.78)	1.49
刑犯	人の物を盗む	1.45 (.73)	<	1.60 (.86)	3.22**
	覚醒剤などの薬物を使う	1.23 (.60)	<	1.32 (.74)	2.21*
	ちょっとしたものを万引きする	1.85 (.91)		1.87 (.96)	.49
	ケンカをして怪我をさせる	2.31 (.99)	<	2.54 (1.03)	3.70***
	刑犯全体	1.71 (.60)	<	1.84 (.68)	3.31**
非行全体		2.54 (.58)	<	2.63 (.65)	2.37*

※　値が高いほど許容的である

※　表中の＋は $p < .10$，＊は $p < .05$，＊＊は $p < .01$，＊＊＊は $p < .001$ を示す。

3. 親子関係と非行的態度

表5と表6は，父母に対する心理的距離の遠－近群ごとにみた虞犯・刑法犯・非行全体に対する許容性得点の平均を沖縄県および他都道県ごとに示したものである。

概して，父親に対する心理的距離が近い群において，虞犯・刑法犯・非行全体に対する許容性が有意に低くなっており，親子関係の親密さが子どもの非行的態度を抑止することを示している。しかも，これは沖縄と他都道県に共通して見られる傾向である。

ただし，刑法犯に対する許容性は，父親に対する心理的距離が近い群において沖縄と他都道県のあいだに差はないが，父親に対する心理的距離が遠い群では沖縄県よりも他都道県の許容性がかなり高くなっている。父親に対する心理的距離そのものに地域差は見られないことから，沖縄においては父親との心理的距離の遠さを補う他の非行抑止要因の存在が垣間見える。

表５　父親との心理的距離の遠－近群ごとにみた非行許容性の平均（標準偏差）

		沖縄県			他都道県		
		父に対する心理的距離		t 値	父に対する心理的距離		t 値
		近群	遠群		近群	遠群	
虞犯	タバコを吸う	2.34（1.12）	2.50（1.12）	1.55	2.44（1.23）	＜ 2.71（1.14）	2.82**
	酒を飲む	2.95（1.07）	3.09（1.00）	1.32	2.97（1.13）	＜ 3.15（1.05）	1.91+
	エッチな雑誌やアダルトビデオを見る	3.40（ .95）	＜ 3.63（ .73）	2.75**	3.50（ .93）	＜ 3.64（ .72）	2.09*
	夜遅くまで遊ぶ	3.20（ .90）	＜ 3.40（ .81）	2.47*	3.27（ .95）	＜ 3.40（ .81）	1.83+
	学校をサボる	2.80（ .92）	＜ 3.07（ .85）	3.11**	2.92（1.01）	＜ 3.11（ .92）	2.35*
	異性の友達と二人で泊まる	3.30（ .97）	＜ 3.52（ .82）	2.57*	3.45（ .91）	3.52（ .86）	1.06
	虞犯全体	3.00（ .79）	＜ 3.20（ .64）	2.85**	3.09（ .82）	＜ 3.26（ .72）	2.72**
刑犯	人の物を盗む	1.41（ .71）	1.51（ .75）	1.35	1.49（ .80）	＜ 1.74（ .92）	3.48**
	覚醒剤などの薬物を使う	1.20（ .59）	1.28（ .64）	1.28	1.22（ .65）	＜ 1.42（ .82）	3.17**
	ちょっとしたものを万引きする	1.77（ .90）	＜ 1.93（ .91）	1.78+	1.67（ .90）	＜ 2.09（ .98）	5.41***
	ケンカをして怪我をさせる	2.26（1.01）	2.40（ .99）	1.50	2.38（1.02）	＜ 2.73（1.02）	4.22***
	刑犯全体	1.67（ .60）	＜ 1.77（ .59）	1.75+	1.69（ .62）	＜ 2.00（ .72）	5.43***
非行全体		2.47（ .62）	＜ 2.63（ .53）	2.97**	2.52（ .65）	＜ 2.76（ .62）	4.36***

※　値が高いほど許容的である

※　表中の＋は $p < .10$，＊は $p < .05$，＊＊は $p < .01$，＊＊＊は $p < .001$ を示す。

一方，母親に対する心理的距離と非行許容性との関係については，概して，母親に対する心理的距離が近い群において，虞犯・刑法犯・非行全体に対する許容性が低い傾向はあるものの，その差は父親ほど明確ではない。加えて，地域差があり，沖縄県では母親との心理的距離の遠－近と虞犯・刑法犯・非行全体に対する許容性のあいだに統計的に有意な関連性はなかったが，他都道県では母親に対する心理的距離が遠い群において，刑法犯・非行全体に対する許容性が有意に高くなっている。

また，父親の場合と同様に，刑法犯に対する許容性は，母親に対する心理的距離が近い群において沖縄と他都道県のあいだに差はないが，母親に対する心理的距離が遠い群では沖縄県よりも他都道県の許容性がかなり高くなっている。母親に対する心理的距離そのものに地域差は見られないことから，沖縄においては母親との心理的距離の遠さを補う他の非行抑止要因があるのではないかと推察される。

表6　母親との心理的距離の遠－近群ごとにみた非行許容性の平均（標準偏差）

		沖縄県			他都道県		
		母に対する心理的距離		t 値	母に対する心理的距離		t 値
		近群	遠群		近群	遠群	
虞犯	タバコを吸う	2.35 (1.14)	< 2.56 (1.09)	2.10*	2.49 (1.20)	< 2.66 (1.17)	1.82+
	酒を飲む	3.02 (1.04)	2.99 (1.01)	.33	3.01 (1.11)	3.06 (1.09)	.51
	エッチな雑誌やアダルトビデオを見る	3.52 (.86)	3.50 (.86)	.27	3.54 (.87)	3.57 (.83)	.43
	夜遅くまで遊ぶ	3.26 (.86)	3.37 (.83)	1.35	3.22 (.97)	< 3.43 (.80)	2.92**
	学校をサボる	2.87 (.93)	2.95 (.87)	.83	3.00 (.95)	3.05 (.97)	.64
	異性の友達と二人で泊まる	3.39 (.94)	3.39 (.91)	.00	3.48 (.86)	3.48 (.91)	.09
	虞犯全体	3.07 (.73)	3.13 (.72)	.88	3.12 (.80)	3.21 (.75)	1.38
刑犯	人の物を盗む	1.41 (.70)	1.48 (.72)	1.13	1.43 (.76)	< 1.76 (.92)	4.90***
	覚醒剤などの薬物を使う	1.22 (.62)	1.23 (.56)	.15	1.18 (.53)	< 1.44 (.87)	4.63***
	ちょっとしたものを万引きする	1.76 (.88)	< 1.93 (.91)	1.99*	1.69 (.89)	< 2.02 (.99)	4.44***
	ケンカをして怪我をさせる	2.25 (.99)	2.38 (.99)	1.38	2.30 (1.01)	< 2.73 (1.01)	5.45***
	刑犯全体	1.66 (.60)	1.75 (.58)	1.58	1.65 (.59)	< 2.00 (.71)	6.57***
非行全体		2.51 (.58)	2.58 (.57)	1.32	2.53 (.62)	< 2.72 (.65)	3.70***

※　値が高いほど許容的である

※　表中の＋は $p < .10$，＊は $p < .05$，＊＊は $p < .01$，＊＊＊は $p < .001$ を示す。

4. 全体的考察

一連の研究と同様に，本稿における調査においても，子どもから見た父母との心理的距離の近さが，子どもの非行的態度を抑制する傾向があることが概ね確認された。すなわち，親子の親密な関係を基盤にして子どもはさまざまな価値観や態度を形成するものと思われるが，なかでも，その良否は非行に対する態度に反映されやすいことが示された。これらの知見は，大都市圏のみならず遠隔地域においても適用可能なものであり，一般的に論じることが可能であると言えよう。

ただし，沖縄においては他都道県と異質な面も見られた。すなわち，両親との心理的距離の近さが子どもの非行的態度を抑止するという傾向に地域差はほとんどみられないが，両親との心理的距離の遠さが非行的態度に及ぼす影響は，沖縄と他都道県で異なっていた。他都道県では，両親との心理的距離の遠さが非行的態度を促進する傾向が明確にみられたが，沖縄県の中高生は，両親との心理的距離が遠い群であっても，他都道県の中高生ほど非行的態度が促進さ

れることはなかった。

父母に対する心理的距離そのものに，大きな地域差はないことから，沖縄においては両親に対する心理的距離の遠さを補って非行的態度を抑止するような（少なくとも，急激に促進させないような）他の要因が存在するのではないかと推察される。

本稿の分析結果をふまえて，両親との疎遠さを補って沖縄の中高生の非行的態度を抑止していると思われる要因を特定すること，そして，その要因が沖縄に特有のものであるのかを探求することが今後の課題である。

【文献】

中村真他，2002,「親子関係に関する国際比較研究（2）―親子間の心理的距離の比較―」,『日本心理学会第66回大会発表論文集』.

中里至正・松井洋，1997,『異質な日本の若者たち　世界の中高生の思いやり意識』，ブレーン出版.

中里至正・松井洋，1999,『日本の若者の弱点』，毎日新聞社.

中里至正・松井洋，2003,『日本の親の弱点』，毎日新聞社.

中里至正他，2003,「非行抑止要因に関する社会心理学的研究」,『平成13年度～14年度科学研究費補助金基盤研究（C）（2）研究結果報告書』.